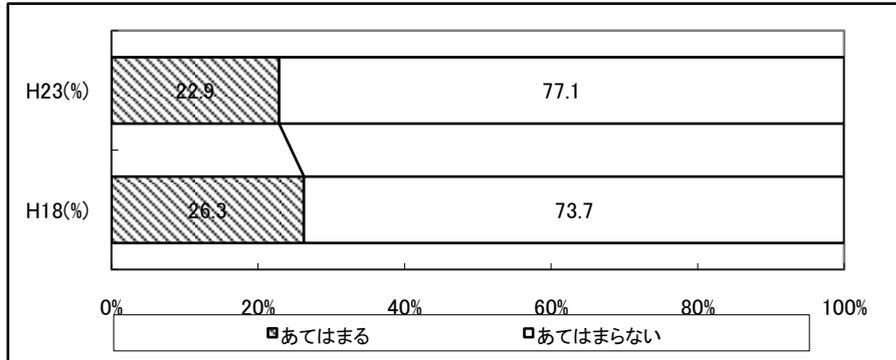


〈学部在學生〉

Q96 卒業後または修了後、さらに教育を受けたまたは受けたと思う

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	73	43
あてはまらない	205	145
計	278	188

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	26.3	22.9
あてはまらない	73.7	77.1
計	100.0	100.0



【自由記載】

本校 別科助産 6人
本校 代替療法について
看護大学 修士
ハワイ大学 看護
大分県立看護科学 NP養成コース
大学院 修士
大学院 博士
琉大 心理
本学以外 まだ詳しくはわからない。

【評価と今後の対策】

卒業後、修了後受けた教育については、平成18年度と比較し23%とやや減少していた。受けた教育については本学の修士・博士課程や助産学科のほか、ハワイ大学、大分県立看護大学NP養成コース、琉大の心理があがった。

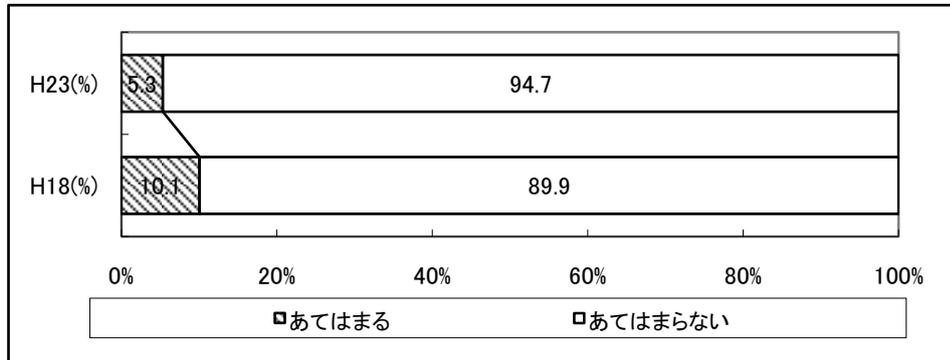
平成18年度と比較しやや減少しているが、4～5人に一人は進学を希望している。大学院、助産学科いずれにしても現場経験を踏んだ後進学することが望ましいことから、在学中から、進学の相談等支援体制を整えることが必要と考える。

〈学部在学学生〉

Q97 将来、本学の修士課程で学習したいと思う

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	28	10
あてはまらない	250	178
計	278	188

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	10.1	5.3
あてはまらない	89.9	94.7
計	100.0	100.0



【自由記載】

3～4年Nrs経験後 島しょ看護学
5年後 小児
まだわかりません

【評価と今後の対策】

将来本学の修士課程で学習したいかについては、平成18年度よりさらに減少し5%まで落ち込んでいた。進学は3～5年後に島嶼看護学、小児看護学を挙げていた。

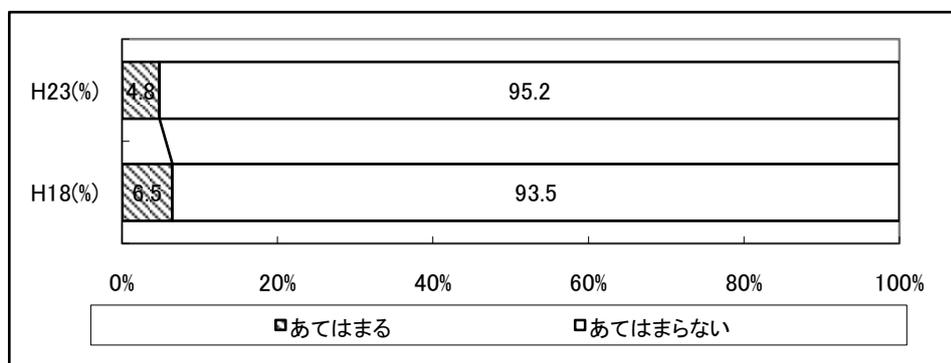
平成18年度と比較し希望者はさらに減少していた。同じ校舎内で学んでいるが、学部生との交流の場がなく、卒業後すぐ進学するわけではないことから、身近に感じる学生が少ないことが考えられる。学部生との交流の場を多く持ち、進路選択の一つとして身近に感じられるような工夫が必要と考える。

〈学部在学学生〉

Q98 将来、本学の博士課程で学習したいと思う

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	18	9
あてはまらない	260	179
計	278	188

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	6.5	4.8
あてはまらない	93.5	95.2
計	100.0	100.0



【自由記載】

まだわかりません

看護師5年目くらい。がん看護or救急看護の分野(専門看護師になりたい)

【評価と今後の対策】

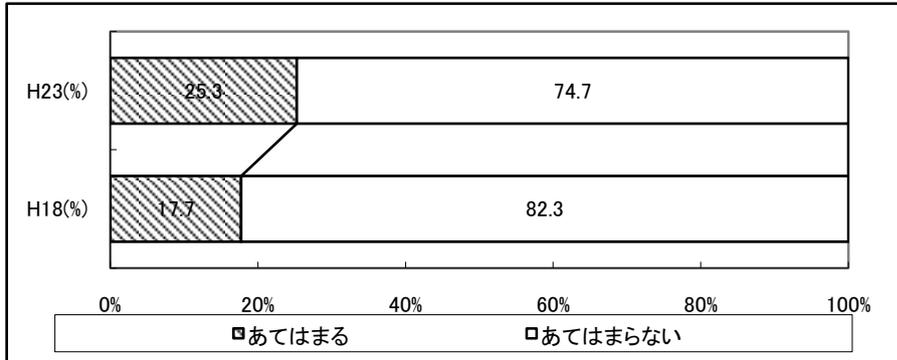
将来本学の博士課程で学習したいかについては、平成18年度よりさらに減少し5%まで落ち込んでいた。進学は5年目くらいに専門看護師と挙げていることから、専門看護師の教育課程との混同があり、学部生への大学院教育の教育課程について広報が必要である。

〈学部在学学生〉

Q99 伝統として今後も残して欲しい本学の長所がある

	H18(人)	H23(人)
あてはまる	48	47
あてはまらない	223	139
計	271	186

	H18(%)	H23(%)
あてはまる	17.7	25.3
あてはまらない	82.3	74.7
計	100.0	100.0



【自由記載】

庭。3人
学食
キレイな所 3人
みんなの勉強に対する態度。
看大祭4人
ハワイ研修 7人
宮古への実習
別科助産の設置 2人
保健師の資格もとれる。
専門科目に体験や演習型の学習法を取り入れていること。
基本科目が多様であること。
図書館
国際分野など
離島実習、島嶼看護 3人
男子会！
沖縄全域における学習体制(実習など)
分からない。2人
少人数(各学年80人)制 2人

【評価と今後の対策】

伝統として今後も残してほしい本学の長所については、平成18年度と比較し25%に増加していた。その内容はハワイ研修、宮古島実習・離島実習などの島嶼看護領域への取り組み、沖縄全域における実習などの学習体制、地域性、国際分野、保健師教育、専門科目の体験演習型学習、多様な基本科目などの教育に関するものがあがった。また、看大祭、渡嘉敷研修などの自主活動のほか、きれいな校舎、のびのびした校庭、図書館、学食などの大学環境があがった。ほかに学生の目線として人が優しい、少人数制、男子会、学習に対する学生の態度などがあがった。

島嶼保健看護を本学の特徴とし、実習に全学的に取り組んできたことに対し、学生から伝統として残したい長所として受け止められていることから、教育の成果と捉えることができる。また、国際保健看護の視点からハワイ研修があがったこと、保健師教育を選択制ではなく卒業要件に入れていることや、ほか本学が取り組んできた教育の特徴を長所として学生が受け止めていることは成果と捉えられる。しかし、比率が25%で、4人に一人しか長所を捉えられていないことから、さらなる、教育成果があがる工夫が必要と考える。

・その他、大学、教職員に対する意見

4年の時間割に改善があると良いと思う。

アンケートが長い。3人

統合試験の改善2人

実習で離島に行く人の負担が大きい。

授業評価が反映

生徒用駐車場の確保14人

学生の声を反映できるようにしてほしいです。2人

実習の配置について、男子学生配置についての改善。男同士になることがない。

担当教員制度は1～4年生混合でのグループ分けの方が、先輩方から学習面や生活面のアドバイスも受けられ、とても良いシステムでした。

学務課の利用時間の延長、昼食時間も対応してほしい。2人

1階図書館側の出入り口を閉めるのは21時以降にほしい。

課題が多い

卒論をなくして国家試験の勉強をする時間が欲しい。

同じ教科でも教員によって記録の書き方や指導方法が異なるため、困る。2人

勉学は学生の自主性を尊重してほしい。国試に落ちるような人は後悔させた方がよい。

教員と学生の距離が遠いので、もっと近づいて学びの深い環境にするべきと感じる。

教員同士どこまで学生が学習しているか把握してないことが多いので、もう少しどうにかありませんか。

大講義室、中講義室の机の上に残った消しゴムのかすや汚れをそうじしてほしい。

冬は暖房がほしいです。

中庭(芝生)がとてもきれいで気持ちがいい。しかし、あまり利用されていないのがもったいない。

あの中庭を使ったイベントがあったらとてもいいと思う！！

現在の国試対策の改善が必要 6人

実習先は学生の希望を優先してほしい。経済的、身体的負担5人

【評価と今後の対策】

その他、学校、教職員にたいする意見として、職員の対応の態度、監視されているようであったので国試への支援は自主性をもっと尊重してほしい、学校に来ることを強制しないでほしい、国試対策の支援への不満、国試対策模試は教員が取り組むべき、教員と学生との距離が遠い、学生の学習の進捗状況をの把握不足、大・中講義室の消しゴムのかすや汚れ、実習配置は住所と近距離に、離島は経済的負担が大きい、実習配置の考慮や経済的サポートが必要、実習グループの男子の複数配置の希望、記録の書き方や指導方法提出の厳しさが教員により違う、4年次の時間割の前期後期のアンバランスなどがあがった。

また、授業評価が反映されない、統合試験を行う意味や回答がないことへの不満、図書館の駐車場は利用者のみにしてほしい、図書館駐車場の充実、担当教員制度は1～4年の縦割りは先輩から学施面や生活面のアドバイスが得られてよい、学長の国試に対する不適切な発言、学務課の利用時間の延長、図書館側の出入り口の閉鎖時間の延長、このアンケートの回答のやりずらさや長すぎるがあった。